

我が国における公的試験の標準化について

我が国の公的試験にとって標準化は馴染のない概念だが、例えば大学入試センター試験の年複数回実施一つをとっても標準化と無縁では済まされない。複数回実施された試験の得点を比較するためには、比較の根拠となるものが存在しなくてはならないのである。

試験は予め平均点や分散を揃えようと出題しても、なかなか思い通りにならないのが現実である。試験問題の統計的性質（困難度や識別性）を予めテストすることなく新作の問題が出題される我が国の公的試験においては特にそうである。大学入試センター試験では地理歴史・公民・理科の選択科目間に最大 20 点以上の平均点差が生じたときには得点調整を行うこととしている。

このような問題を解決する手段の 1 つとして、試験の標準化が考えられる。セミナーでは試験の標準化とはどういうことか、何故標準化が必要なのか、標準化がどのようなプロセスで行われるのか等について基礎的に解説する。

司 会： 繁 柊 算 男（東京大学 大学院総合文化研究科 教授）

講 師：

1. 我が国における伝統的試験と標準化された試験

石 塚 智 一（大学入試センター 研究開発部長）…………… 1

2. 標準化の技術的基礎

前 川 眞 一（東京工業大学 大学院社会理工学研究科 教授）…… 5

3. 米国における標準化された試験－SAT, TOEFL－

椎 名 久美子（大学入試センター 研究開発部 助教授）…………… 17

4. 何が日本の入試得点の標準化を阻んでいるのか

村 上 隆（名古屋大学 大学院教育発達科学研究科長）…………… 31

平成 15 年 6 月

国立大学入学者選抜研究連絡協議会